

甲 第 号

今井信也 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	今井信也
論文審査担当者	委員長	教 授	長谷川正俊
	委 員	教 授	田中康仁
	委 員	教 授	今村知明
	(指導教員)		

主論文

Benefits of computed tomography in reducing mortality in emergency medicine.

救急医療における CT 使用による各疾患の死亡率低減効果

Shinya Imai, Manabu Akabane, Yuto Konishi, Tomoaki Imamura.

Open Medicine 2018 Sep 14;13:394-401.

論文審査の要旨

コンピュータ断層撮影 (CT) は救急医療において重要な役割を果たしており、様々な疾患の死亡率低減に影響を及ぼしている可能性があるが、導入には高額な費用を要するため、各施設での十分な検討が必要である。本研究では、各都道府県の CT 利用率と各疾患の年齢調整死亡率について重回帰分析を行い、CT 利用率と死亡率の関連について解析し、さらに CT の収支を都道府県別に試算して、CT 導入の採算性についての検討、マルチスライス CT とシングルスライス CT の収支についての比較検討を行っている。

重回帰分析の結果、交通事故の死亡率には、CT 利用率、人口密度との相関を認め、さらに転落、溺水、窒息による外因性死亡にも、CT 利用率との相関を認めて、緊急医療における CT の利用が死亡率を低下させることを示している。また、CT が救急医療のみでなく、病院経営上においても有益なことを示唆している。

CT 利用率、年齢調整死亡率、その他のデータを解析して、本邦における CT の有用性について解析した画期的な研究であり、救急医療における有用性のみでなく、病院経営上の有益性も示唆している意義は極めて大きい。今後、さらに検討すべき課題も散見され、研究のさらなる発展が期待される。本研究は、CT の有用性について救急医療および病院経営の両面から明らかにしており、非常に有意義な研究成果と評価される。

参 考 論 文

1. わが国における磁気画像共鳴装置（MRI）導入による採算性に関する一考察
今井信也, 小川俊夫, 赤羽 学, 今村知明
医療情報学 34 卷 3 号 Page141-149(2014.09)
2. IVR における術者の白内障リスクの検討
今井信也, 赤羽 学, 木村信三, 丹喜信義, 溜池数磨, 石山成浩, 今村知明
大阪物療大学紀要 5 卷 Page27-31(2017.03)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに公衆衛生学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 30 年 11 月 13 日

学位審査委員長

総合病態放射線腫瘍学

教 授 長谷川正俊

学位審査委員

運動器再建医学

教 授 田中康仁

学位審査委員（指導教員）

公衆衛生学

教 授 今村知明